



ENEOS 株式会社 会社案内

「ENEOS」コーポレートブランドマークに込めた思い

ENEOSは、2001年7月に誕生し、今日まで広く社会に浸透し、愛されてきたブランドです。「ENERGY/エネルギー」と「NEOS/ネオス(ギリシャ語で新しい)」という二つの言葉を組み合わせた造語で、さまざまなエネルギーのメニューを取りそろえ、お客様一人一人に満足をお届けしたいという思いを込めています。マークは、「エネルギー」を象徴的なフォルムでデザインしました。中心の球体は「信頼性」と「永続性」を、外に広がるスパイラルは「創造性」と「革新性」を表現しています。



コーポレートブランドマーク

ENEOS会社概要

社名	ENEOS株式会社(英文名称 ENEOS Corporation)	資本金	300億円(ENEOSホールディングス株式会社の100%出資)
設立	1888年(明治21年)5月10日	従業員数	単体9,103人(2022年4月1日現在)
代表者	代表取締役社長 齊藤 猛	事業内容	・石油製品(ガソリン・灯油・潤滑油等)の精製および販売 ・ガスの輸入および販売 ・石油化学製品等の製造および販売 ・電気・水素の供給
本社	〒100-8162		
所在地	東京都千代田区大手町一丁目1番2号		



未来へ Do! ENEOS

地球の力を、未来へ進む力に。

私たちは、新たな価値創造に果敢に挑み、
環境問題や社会課題を解決していきます。
そして、変わりゆく社会の中で、
変わらず人々の生活や暮らしを支え続けます。

ENEOSグループ



水素ステーション

P7



風力発電

P6



環境リサイクル

P9



メガソーラー発電

P6



CO₂フリー水素
輸送・発電

P7



モビリティサービス

P9



高機能・先端素材
低燃費タイヤ素材SSBR
(溶液重合スチレン・ブタジエンゴム)

P8



ENEOSでんき

P10



ENEOSの森

P13

長期ビジョンと事業の将来像

当社グループを取り巻く事業環境は、世界的な低炭素社会への加速、AIやIoTなどイノベーションの急速な進化、ESGやSDGsに代表される企業の社会的責任に対する気運の高まりなど、過去に例を見ない変化に直面しています。加えて、国内の燃料油需要は減少が続いており、現状の延長線上だけで生き残ることは困難です。このような危機感のもと、当社グループは、2019年5月に「2040年 ENEOSグループ長期ビジョン」を発表しました。これは、現在のグローバルトレンドから2040年における社会シナリオを描き、その社会において当社グループがどうありたいか、そのために今何をすべきかという、私たちの道標になるものです。当社は、この「長期ビジョン」の実現を通して、持続可能な未来を社会と共に築いていきます。

2040年 ENEOSグループ長期ビジョン

— ありたい姿 —

1 アジアを代表する
エネルギー・素材企業

2 事業構造の変革による
価値創造

3 低炭素・循環型社会
への貢献



事業活動を通じて貢献したいSDGs重点5項目

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 9 産業と技術革新の基盤をつくる
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を

企業活動を通じて貢献したいSDGs重点5項目

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 10 人や国の不平等をなくそう

脱炭素社会への貢献

太陽光、風力などの電源開発を通して、持続可能で活力のある社会を実現



うるまメガソーラー発電所

再生可能エネルギー

当社は、石油・石炭などの“一次エネルギー”を、ガソリン・電気などの“最終エネルギー”に変換し、社会に安定供給することを担う企業として成長してきました。現在、エネルギー業界は“脱炭素”に向けた大きな転換期を迎えています。

こうした時代の動きに応じ、当社は太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギー事業の拡大に取り組んでおり、新たにグループに加わったジャパンリニューアブルエナジー (JRE) と合わせ、国内では再生可能エネルギーによる82カ所の発電所を運営しています。脱炭素社会の実現に貢献すべく、今後も電源開発を積極的に推進し、日本を代表する再生可能エネルギー事業者を目指します。



鶴岡八森山風力

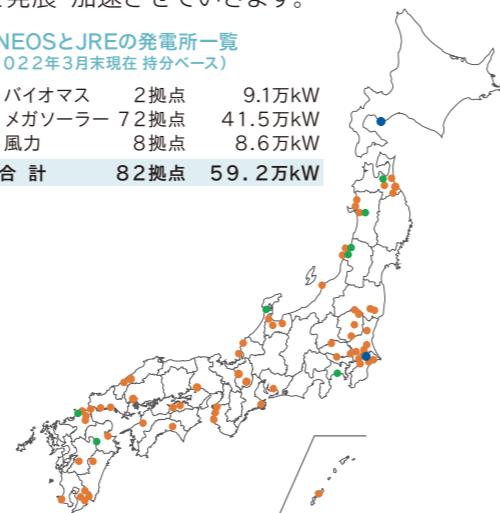
Focus

JREについて

ENEOSは2022年1月にJREの株式を取得し、JREは当社のグループ会社となりました。同社は、高い電源開発能力を有する国内有数の再生可能エネルギー事業者であり、ENEOSがこれまでにエネルギー事業で培ってきた知見を結集することで、さらに事業を発展・加速させていきます。

ENEOSとJREの発電所一覧
(2022年3月末現在 持分ベース)

● バイオマス	2拠点	9.1万kW
● メガソーラー	72拠点	41.5万kW
● 風力	8拠点	8.6万kW
合計	82拠点	59.2万kW



水素社会の実現

石油精製事業で培ったノウハウを武器に、水素エネルギーの社会実装をけん引



東京大井水素ステーション

水素供給

石油精製販売事業で培ってきたノウハウを活用し、水素の製造から販売までの一貫体制を敷いています。4大都市圏を中心に47カ所の水素ステーション(2022年6月末時点)を整備しており、乗用車タイプの燃料電池自動車だけでなく公共交通機関の燃料電池バスなどにも水素を供給しています。さらに、再生可能エネルギー等で製造するCO₂フリー水素供給も手掛けています。2021年には横浜旭水素ステーションにおいて、国内で初めてCO₂フリー水素の製造・商用販売を開始しました。

首都圏(31カ所)

東京都…8カ所(内、移動式1カ所)
神奈川県…13カ所(内、移動式7カ所)
千葉県…3カ所
埼玉県…6カ所(内、移動式3カ所)
茨城県…1カ所(移動式)

北部九州圏(5カ所)

福岡県…5カ所

関西圏(3カ所)

大阪府…2カ所
京都府…1カ所

中京圏(8カ所)

愛知県…8カ所

ENEOSの水素ステーションマップ

Focus

CO₂フリー水素 サプライチェーンの構築

脱炭素に向けた本格的な水素の大量消費社会を見据えて、国内外でCO₂フリー水素サプライチェーン構築に取り組んでいます。海外においては、豪州や中東、アジアにおける広範囲なアライアンスを活かし、安価な水素の大量供給実現に向けた検証を行っています。海外から水素の大規模輸送を可能にする水素キャリアであるMCH(メチルシクロヘキサン)は石油に性状が似ていることから、輸送・貯蔵において当社の既存設備を活用することができるため、コスト的にも優位性があります。さらに、2019年には再生可能エネルギー由来のMCHを低コストで製造する技術検証に成功しており、製造量などのスケールアップ検証に取り組んでいます。



ENEOSが豪州での建設を検討している発電・電解槽施設のイメージ図

地域サービスの拡充



EV関連サービス

今後のEV普及を見据え、サービスステーションや他社との協業によるEV急速充電・普通充電ネットワークの拡大を目指しています。EV急速充電器については、2025年時点で、1,000基以上、2030年までに最大1万基の設置を目標としています。さらに、経路充電（移動経路における充電）事業に加え、「ENEOSでんき」と連携した基礎充電（ご自宅での充電）向けのサービス、EVのリースやシェア・メンテナンスなどの関連サービスの展開に取り組んでいきます。



地域サービスの拡充



モビリティサービス・ライフサポートサービス

当社は、全国にあるサービスステーションのネットワークを生かし、モビリティサービスとライフサポートサービスの創出に力を入れています。モビリティ分野においては、カーシェアやカーリースなど、車を所有しない生活スタイルにも対応できる利便性の高いサービスを提供しています。ライフサポート分野においては、地域密着・最寄り性というサービスステーションの特徴を活かして、コンビニやコインランドリーを併設するなど利便性の高い店舗づくりを進めています。



ENEOSLaundry



環境負荷低減



低燃費タイヤ素材の開発

モビリティ分野において、環境負荷を低減する素材を提供しています。エラストマー素材「SSBR（溶液重合スチレン・ブタジエンゴム）」は、環境に優しく、かつ確実に安全に止まる性能を維持する低燃費タイヤの素材です。



低燃費タイヤ素材SSBR

循環型社会に向けて



EV用蓄電池の有効活用

当社は、BYDジャパンとの協業によりEVバス蓄電池の「リース・リユース・リサイクル」循環モデルの構築に取り組んでいます。これは、EVバスに搭載される蓄電池をバス運行会社にリースし、EVバス用として寿命を迎えた蓄電池を再生可能エネルギーの電力をためる蓄電池としてリユースし、使用後は、素材レベルまで分離・回収して新規材料へリサイクルするというものです。



EV用蓄電池有効活用の循環モデル

エネルギー安定供給

多様化するエネルギーのニーズに対し、一貫したバリューチェーンで安定供給を実現



川崎製油所

石油精製販売

原油の調達から、製油所での精製、12,000カ所超の系列サービスステーション(SS)での販売に至るまで、当社は、暮らしに不可欠な石油製品の安定供給をサプライチェーン全体で支えています。また、SSでは、多様化するお客様のニーズにお応えするため、コンビニエンスストアやカフェの併設など、さまざまな施策を展開しています。



セルフSSブランド「EneJet」

電気・ガス販売

2016年4月から「ENEOSでんき」のブランドで家庭用電気販売を開始し、2020年6月には全国^(※)でご利用いただけるようになりました。2022年3月末時点で、約101万世帯のご契約をいただいています。また都市ガスでは、2018年2月から東京ガス株式会社の供給エリアのうち「東京地区など」において、「ENEOS都市ガス」のブランドで家庭向けの都市ガス販売を開始し、2022年3月末時点で、約12万世帯のご契約をいただいています。

※沖縄、離島は除く

ENEOSでんき

ENEOS都市ガス

電力・都市ガス小売り事業ブランドロゴ

石油の高付加価値化

高付加価値製品を世界の拠点からグローバルに展開



石油化学

プラスチックやポリエステル製の衣類、自動車タイヤ、塗料など、石油化学製品は生活のあらゆる場面で利用されており、暮らしになくてはならない存在です。当社は、今後も需要が拡大するポリエステルの主原料であるパラキシレン、プラスチックなどの原料として用いられるプロピレンにおいて、それぞれアジア最大級の供給能力^(※)を誇っています。その他にも、今後需要の増加が見込まれる誘導品展開にも力を入れています。また直近では、製油所での石油化学品増産に向けたケミカルリファイナリー化の取り組みも行っています。 ※外販量ベース



パラキシレンを原料とするポリエステル繊維の洋服

潤滑油

当社は潤滑油を世界の産業を支える「技術立脚商品」と位置付けています。当社独自の技術を組み込んだ自動車用、工業用、船舶用など幅広い用途の潤滑油を製造・販売しており、EV用潤滑油など次世代に向けた開発も進めています。海外ではアジアや欧米、中東などにおいて約30カ所の販売拠点および70カ所以上の製造拠点(委託製造先含む)を有しており、さらなる海外事業の拡大を目指します。



新SSオイル「ENEOS X PRIME」

Focus

DX(デジタルトランスフォーメーション)の取り組み

当社は、多様なデータとAIなどの先進デジタル技術を組み合わせることにより、製油所の自動運転化や画期的な新製品・新サービスの創出に取り組んでいます。また、2020年7月には、DXの推進を目的とする専門組織「CDOオフィス」を立ち上げ、デジタル化の動きをさらに加速させています。

基盤事業の効率化

- 製油所の効率運転
- 供給、物流の効率化
- SSの効率運営

画期的な新製品・新サービスの創出

- マッチングによるビジネスモデル構築
- デジタルマーケティング
- 新素材・触媒開発のスピードアップ、効率化
- エネルギープラットフォーム事業への参画

Focus

廃プラリサイクルの事業創出

環境対応型事業の一つとして、廃プラスチックを石油・石油化学製品の原料として再生利用するケミカルリサイクルの技術検討を推進しています。これは製油所を活用し、廃棄されたプラスチックを油化し、石油・石化製品の原料として使用可能にするもので、鹿島コンビナートにおいては、三菱ケミカル株式会社と共同で技術検討を行っています。



廃プラリサイクルのイメージ

ENEOSグループの新領域への挑戦

長期ビジョンを実現し、2040年においても存在感を発揮する企業であるために、当社は積極的にオープンイノベーションに取り組んでいます。2019年にENEOSホールディングス100%出資のコーポレートベンチャーキャピタルである「ENEOSイノベーションパートナーズ」を設立し、革新的な技術や事業アイデアを持つ国内外のスタートアップへの出資および協業を推進しています。

ENEOSイノベーションパートナーズのHPはこちら⇒



注力領域3テーマを定めてスタートアップ企業との協業を推進

出資先(2022年3月時点)



その他のオープンイノベーション

大学との連携

東京工業大学 高機能材料開発の共同研究講座
早稲田大学「ENEOSラボ」 CO2削減に向けた革新技術の研究

横浜国立大学 微粒子の製造・分離に関する技術開発

ベンチャーキャピタルファンドへの出資

2019年 6月 NEX Partners 3号ファンド
2021年10月 Westly Capital Partners Fund IV, L.P.
2021年11月 Emerald Industrial Innovation Fund L.P.

社内ベンチャープログラム

事業創造活動 Challenge X

社外と連携する一方、当社グループは、挑戦を是とし失敗を許容する企業風土の醸成も進めています。その一つが、従業員個人のアイデアを事業化する社内ベンチャープログラム「Challenge X」です。従業員の誰もが自由なテーマで応募でき、高い評価を得られれば、そのアイデアの起案者が社内ベンチャーを立ち上げることが可能です。多種多様な人材の自由な発想を生かすことで新たな価値の創造を加速していきます。



過去の最優秀賞受賞テーマ

- 2019年度：外国人向けドライブ観光Iza-jp(イザジェイピー)
- 2020年度：熱中症対策向けドライアイス作業着および製造機リース事業のご提案
つぶつぶ食品調味料の製造販売事業のご提案
- 2021年度：国産木材サプライチェーンの再構築「ENEOS森林エコシステム」
カーボンニュートラルガソリンの販売～運輸部門のネットゼロを目指して～

社会的課題の解決を見据えて

ENEOSでは、社会的課題の解決を見据え、本社、各製油所・製造所をはじめとする各事業拠点およびグループ会社で、年間を通じて社会貢献活動重点分野の取り組みを展開しています。

スポーツ・文化の振興

障がい者スポーツ支援

車いすバスケットボールや障がい者野球の振興を目的に、2006年から「日本車いすバスケットボール連盟」へ、2007年から「日本身体障害者野球連盟」、2019年から「非営利活動法人日本デフバスケットボール協会」へ協賛しています。大会には、多くの従業員やその家族が応援・観戦に訪れるほか、ボランティアとしても大会運営に協力しています。



スポーツ・文化の振興 / 次世代育成・支援

バスケットボールクリニック

小学生以上を対象としたバスケットボールクリニックを1995年から全国各地で年間70回程度開催しています。ENEOSサンフラワーズの現役選手やスタッフ、OGがコーチとしてバスケットボールの魅力を伝えるとともに、技術指導を行っています。



次世代育成・支援

バスケットボール大会協賛

当社は1996年から「ウインターカップ 全国高等学校バスケットボール選手権大会^{※1}」、2016年から「Jr.ウインターカップ 全国U15バスケットボール選手権大会^{※2}」ならびに「全国ミニバスケットボール大会」に協賛しています。各大会では、ENEOSブースの出展で大会を盛り上げています。ENEOSは、これらの大会協賛を通じて日本代表などで活躍する選手など、次世代の育成を推進しています。



※1: 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会を含む
※2: 都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会を含む

環境保全

ENEOSの森

地方自治体や公益社団法人国土緑化推進機構と協働し、全国7カ所の「ENEOSの森」にて森林保全活動を実施しています。各地域で森林保全専門に活躍するNPOの方々をお呼びし、当社グループ従業員やその家族が、植樹、間伐、下草刈り等の森林保全に取り組むほか、自然観察や鳥の巣箱かけなど、自然に親しむ活動を行っています。



児童文化賞・音楽賞

日本の児童文化・音楽文化の発展・向上に尽くしてこられ、将来大きな活躍が期待される方々をたたえ、児童文化賞(創設:1966年)、音楽賞(創設:1971年)を毎年開催しています。漫画家、教育者、子供新聞の編集者、ミュージカル主宰者など、多様な分野から受賞者が選ばれています。



ENEOS野球教室

ENEOS野球部の選手およびOBによる、「野球教室」を各地で開催しています。地域の小・中学生を対象に野球の魅力を伝えるとともに、技術指導を行っています。



童話の花束

「心のふれあい」をテーマとした創作童話を募集し、優秀作品を表彰する「ENEOS童話賞」を1970年から毎年開催しています。優秀作品を収録した「童話の花束」をチャリティー販売した売上金は、「ENEOS奨学助成制度」を通じ全額寄付しています。2020年までに累計7,235名の子どもたちへ約7億1千万円の支援を行いました。



グリーンベルトの生物多様性保全

知多事業所内のピオトープや根岸製油所内に設けた緑地帯(グリーンベルト)は、近隣の緑地とつながる生態系ネットワークを形成し、多様な「いきもの」が確認されています。所内での生物多様性保全の取り組みは高く評価され、「一般社団法人いきもの共生事業推進協議会」の「いきもの共生事業所」として認証されています。



Company Profile 会社概要

ENEOSグループ理念

使命

地球の力を、社会の力に、そして人々の暮らしの力に。エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて、社会の発展と活力ある未来づくりに貢献します。

大切にしたい価値観

社会の一員として

高い倫理観

誠実・公正であり続けることを価値観の中核とし、高い倫理観を持って企業活動を行います。

安全・環境・健康

安全・環境・健康に対する取り組みは、生命あるものにとって最も大切であり、常に最優先で考えます。

人々の暮らしを支える存在として

お客様本位

お客様や社会からの期待・変化する時代の要請に真摯に向き合い、商品・サービスの安定的な供給に努めるとともに、私たちだからできる新たな価値を創出します。

活力ある未来の実現に向けて

挑戦

変化を恐れず、新たな価値を生み出すことに挑戦し続け、今日の、そして未来の課題解決に取り組みます。

向上心

現状に満足せず、一人ひとりの研鑽・自己実現を通じて、会社と個人がともに成長し続けます。

ENEOSグループについて

～アジアを代表するエネルギー・素材企業グループへ～

ENEOSホールディングス

ENEOS <エネルギー>

ダントツのマーケットリーダーへの飛躍

国内燃料油※1 販売シェア
2021年度実績 国内1位 **50%**

※1 国内燃料油＝ガソリン、灯油、軽油、A重油の合計

グローバル市場でのプレゼンス確立

パラキシレン **323万t/年** <外販量アジア1位>

プロピレン **164万t/年** <外販量アジア1位>

JX石油開発 <石油・天然ガス開発>

原油・天然ガス 権益生産量 **9万バレル/日**
原油換算(2021年度実績)

JX金属 <金属>

資源開発 銅鉱山権益量 **19万t/年**
銅精鉱中の銅量(2021年度実績)

銅製錬 国内地金生産能力 **45万t/年**
機能材料・薄膜材料 世界シェア1位の製品群

上場関連会社

東邦チタニウム、日本石油輸送、丸運等

ENEOS事業所マップ

